

市第 130 号議案

横浜教育ビジョン2030の策定

横浜教育ビジョン2030を次のように定める。

平成30年2月16日提出

横浜市長 林 文子

横浜教育ビジョン2030

第1 横浜の教育が目指す人づくり

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

第2 横浜の教育が育む力

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力を五つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」で表し、相互に関連付けながらバランスよく育んでいきます。

1 知 生きて はたらく知

- (1) 基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力
- (2) 主体的に考え、意欲的に学び続ける力
- (3) 知識や経験を活かし、知恵をはたらかせて生きる力

2 徳 豊かな心

- (1) 自分を大切にし、しなやかに生きる力
- (2) 自分を律する態度と人を思いやる優しさ
- (3) 「本物」に触れることで育む豊かな感性

3 体 健やかな体

- (1) 自ら健康を保持増進しようとする態度
- (2) 体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力

- (3) 生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度

4 公 公共心と社会参画

- (1) 自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力
- (2) 横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力
- (3) 夢や目標を持ち、よりよい社会を創造しようとする態度

5 開 未来を開く志

- (1) 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力
- (2) グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて行動する力
- (3) 進取の精神を持ち、新たな価値を創造しようとする態度

第3 横浜の教育の方向性

多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します。

多様性を尊重し、つながりを大切にしながら、次の四つの方向性に沿って施策や取組を進めます。

1 子どもの可能性を広げます

- (1) 主体的な学び

主体的な学びを引き出し、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばします。

- (2) 創造に向かう学び

よりよい社会や新たな価値の創造に向け、学びを社会と関連付け、他者と協働する機会を創出します。

- (3) 支え合う風土

相手と心から向き合うこと（想）を大切にし、多様な価値観を認め、支え合う風土を醸成します。

- (4) 学びと育ちの連続性

幼児期から社会的自立までの成長過程における学びや育ちの連続性を大切にします。

2 魅力ある学校をつくります

(1) 安心して学べる学校

教職員が子どもの理解を深め、いじめなどの課題をチームで解決し、安心して学べる学校をつくります。

(2) 社会とつながる学校

地域や社会と目標を共有し、連携・協働することを通して、子どもと社会がつながる学校をつくります。

(3) いきいきと働く教職員

子どもが豊かに学び育ち、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくります。

(4) 学び続ける教職員

教職員は自ら学び続け、資質・能力の向上を図り、使命感や情熱を持って職責を果たします。

3 豊かな教育環境を整えます

(1) 安全・安心な環境

学校施設の計画的な建替えや保全等を進め、子どもの安全・安心を確保します。

(2) 地域とともに歩む学校

地域とともに子どもをよりよく育む教育環境を整えます。

(3) 市民の豊かな学び

生涯にわたって主体的に学び、心豊かな生活につながるよう、市民の学びの環境を整えます。

4 社会全体で子どもを育みます

(1) 家庭教育の支援

家庭は子どもの心身の調和のとれた発達、自立心の育成、生活習慣の確立を図り、行政は家庭教育を支援します。

(2) 多様な主体との連携・協働

学校、家庭、地域をはじめ、国内外の様々な関係機関や企業等が連携・協働し、子どもを育みます。

(3) 切れ目のない支援

教育と福祉、医療等の連携により、子どもを切れ目なく支援し、自立と社会参画に向けた学びや発達を保障します。

提 案 理 由

2030年頃の社会の在り方を見据えるとともに、新学習指導要領の考え方を踏まえた「横浜教育ビジョン2030」を策定したいので、横浜市議会基本条例第13条第3号の規定により提案する。